

佳作

最高の演奏を

鹿児島県 鹿児島市立春山小学校五年 今吉華保

「ああ、終わった。ぜんぜん音が合わない。三か月間、一生けん命練習をがんばってきた努力が、おだになってしまふ。みんなごめん」。

私は、そんな気持ちで絶望の中にいました。どうすることも出来ずなみだが出てきました。

今日は、「鹿児島県吹奏楽コンクール」。私たち春山小学校音楽部は、このコンクールで金賞を取ることを目標に、毎日練習をがんばってきました。私たちのバンドは、現在十九名しかいませんが、みんな仲良しで、とても良いバンドです。今まで、一度も金賞をとったことはありません。私は、打楽器のティンパニ担当です。ティンパニは、太こ一つ一つに音ていがあり、音を奏でることが出来る、はなやかな楽器なので、気に入っています。

本番直前、ぶ台うらで、私は泣いていました。テ

ィンパニの音を合わせるチューニングがうまくいかなかったからです。

出番の前、ぶ台うらでは、パーカッションメンバーや、付きそいの保ご者で少しずつ楽器を運びます。演奏の合間に、チューナーという機械を使って音を合わせますが、楽器を少し動かすたびに音がずれてしまいました。お母さんが見かねて、こもんの先生をさがしに行きましたが、見つかりません。その様子に気づいた、スタッフの方が、楽器屋さんを連れてきてくださいました。

「えんえん泣いている子はだれかな。」

と、じょう談を言いながら、登場した楽器屋さんは、前に学校にティンパニの修理に来て下さった人でした。どんな楽器でも修理出来る、スーパーマンのような人です。

「あれ、この前学校に修理に行ったよね。もうティンパニとけんかしちゃったのかな。」

と言われ、私は思わず笑いました。楽器屋さんは、私に話しかけながら、手は休まずに、ずっとチューニングをしてくれました。

「はい、これでチューニングはばっちり。もう間違えても、楽器のせいにはできないよ。おじさん演

奏見ているからね。」

と言いました。私は心から、

「ありがとうございます。」

と言いました。あとは練習の成果を出せるように、思いつきりたたこうと、前向きな気持ちになりました。スーパーマン楽器屋さんが見えていると思うと、気合も入りました。

本番、私は自信をもってどうどうとたたたくことが出来ました。みんなも落ち着いていて、今までで一番良い演奏が出来ました。

ついにコンクールの表しよう式。

「春山小学校、ゴールド金賞。」

その言葉を聞いて、おどろきと喜びでいっしゅんかたまりました。

「上手だったよ。金賞だったね。」

と、楽器屋さんも声をかけてくれました。私が最高の演奏が出来たのは、周りのたくさんの人たちのサポートがあったからだど、感じました。来年も全力でいどみたいと思います。